

基本的施策1 市民自治活動・学び

R9年度末に目指す状態

自ら学び、地域活動や市民活動に取り組む市民が増えている

	R5	R6	R7	R8	R9
(1)持続可能な身近なコミュニティづくり	No.1 複合型コミュニティ「まちのえき」づくり(地域コミュニティ推進課)				
	No.2 市民活動創発プラットフォーム「BASE生駒」(市民活動推進センター)				
(2)主体的な学びの場の創出	No.3 学びと活躍推進事業(生涯学習課)				
	No.4 高齢者教育推進事業(生涯学習課)				
	No.5 市内生涯学習施設整備事業(スポーツ振興課)				
	No.6 やまびこホール廃止関連事業(防災安全課・スポーツ振興課・消防署)				
			No.7 市内生涯学習施設整備等計画策定・大規模改修等(スポーツ振興課)		
	No.8 図書館リニューアル事業(図書館)				
	No.9 まちづくりの拠点としての図書館づくり(図書館)				
		No.10 図書館システムサーバ等機器入れ替え(図書館)			
	No.11 ビジネス支援事業(図書館)				

基本的施策1 市民自治活動・学び

R9年度末に目指す状態

自ら学び、地域活動や市民活動に取り組む市民が増えている

	R5	R6	R7	R8	R9
(3)文化振興による市の魅力向上	No.12 「音楽のまち生駒」推進事業(生涯学習課)				
	No.13 歴史文化の発信(生涯学習課)				
	No.14 市史編さん事業(図書館)				

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課		地域コミュニティ推進課		関 係 課		全課			
事業名	No.	1 複合型コミュニティ「まちのえき」づくり									
事業区分	継続	会計区分	一般会計		予算費目	款	2	項	1	目	8
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/>	行政改革大綱		(1)(4)		
根拠法令等							事務区分		自治事務		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R2 年度～ 年度)										

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	身近な拠点に多様なサービスと人的交流を創出し、あらゆる世代が集い、誰もが居場所と活躍のある持続可能なコミュニティを構築する。										
事業概要 (全体計画)	集会所や公園などの歩いて行ける範囲の拠点において、新たに場づくり活動を行う市民活動団体(自治会等)に対して補助金を交付することにより、活動のスタートアップ支援及び継続的な伴走支援を行う。										
	事業の対象	生駒市民 (対象数: ー)									
決算年度の 主な取組	当初計画					取組実績					
	補助金3,500千円 事業計画策定WS 689千円 情報発信 330千円 コミュニティ間交流60千円 事業啓発等37千円					補助金 2,636千円 7件 ネットワーク会議委託 495千円 情報発信 165千円 事業啓発等 6千円					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()										

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	3,341	4,616	3,302	5,467
12委託料	805	1,019	660	1,507
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金	2,506	3,500	2,636	3,900
その他	30	97	6	60
財源(千円)	3,341	4,616	3,302	5,467
特定財源	3,325	2,590	1,648	2,733
市債				
その他				
一般財源	16	2,026	1,654	2,734

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	令和6年度は新たに2拠点増えており、自治会を中心とした市民活動を支援できている。											
KPI	指標1					指標2						
	指標名(単位)	複合型コミュニティ(愛称:まちのえき)の拠点数										
	目標値	15										
	実績値	14										
目標値と実績値の差分についての理由	地域の担い手不足や資金面の課題等により、新たに複合型コミュニティ「まちのえき」づくりに取り組む余力がある自治会が限られる。											
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)												
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由										
	B	特定財源を確保するよう努め、想定通り調達できる見込みである。										
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由										
	B	地域コミュニティ推進の基礎的な集団である自治会の活性化に向け、継続的に支援している。										
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由										
	B	複合型コミュニティの立ち上げに際して住民アンケートを実施するとともに、まちのえきの活性化に向け、民間企業等が参画できる仕組みを構築している。										
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由										
	C	複合型コミュニティの立ち上げに際して実施する住民アンケートをロゴフォームから回答できるようにするなど、若年層が取り組みやすい仕組みの構築に取り組んでいる。										
総合評価	評価	評価した根拠・理由										
	B	自治会をはじめとした地域コミュニティの支援を実施しているが、余力のある自治会は限られており、今後地域コミュニティの活性化に向けては取組方法の再検討などが求められる。										
事業実施上の課題・残された課題	余力のある自治会が限られていることから、好事例の展開や他主体の参画による自治会負担の軽減などに取り組む必要がある。											
今後の取組方針	現状維持	判断理由										
		地域の基礎的なコミュニティである自治会を支援することは、まちの賑わいづくりだけでなく、防犯や災害対応等、様々な効果が見込まれる。										

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課	市民活動推進センター	関 係 課	広報広聴課、生涯学習課
事業名	No.	2	市民活動創発プラットフォーム「BASE生駒」		
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	2 項 1 目 8
施策体系	1	市民自治活動・学び		戦略的施策	<input type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)、(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(4 年度～ 6 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	地域への関心を促し、地域に参加するきっかけとなるような講座や交流会を実施することで、様々な分野で自主的・主体的な市民活動が広がり、市民自治のまちづくりが推進する。		
事業概要(全体計画)	地域活動に必要なスキルや考え方を学ぶ講座と、自分のやってみたいことを語り合い仲間を見つける交流会を組み合わせることで新しい層の参画を促す。		
	事業の対象	生駒市民	(対象数: -)
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績	
	講座と交流会の企画運営、事業広報、アイデア実現に向けた伴走支援 ▶報償費 435千円 ▶消耗品費 80千円 ▶印刷製本費 553千円 ▶委託費 66千円	▶地域活動スキルアップ講座(全6回) 314千円 ▶連続講座「小さくはじめる場づくり講座」 425千円	
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	865	1,134	739	0
12委託料	0	66	0	
14工事請負費	0	0	0	
18負担金補助及び交付金	0	0	0	
その他	865	1,068	739	
財源(千円)	865	1,134	739	0
特定財源	382	1,134	739	
市債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	483	0	0	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	事業の一環で実施した交流会や講座の参加者が複数名集まって、市民プロジェクトを企画運営することに繋がった。ららポートが出会いの場を提供することで、新たな市民活動が生まれた。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	新規事業数	-	
目標値	2	-	
実績値	1	-	
目標値と実績値の差分についての理由	市民活動の創出支援はしてはいるものの、講座参加者の動向を全て追うことができないため		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	公益活動アドバイザー会議で専門家の意見を聞きながら、大幅に事業を見直し、連続性を持たせることで費用対効果の高い事業実施を心がけた。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	今年度から各講座の中で交流・対話の機会を十分に確保したところ、約9割の人が「活動に必要な新しい仲間ができた」と答えた。また、講座参加者の8割が働き盛り世代であった。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	1回完結講座の申し込み状況や参加者アンケートからニーズを把握し、連続講座や新年度事業の企画につなげた。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	講座の情報発信にインターネットやSNSを活用したり、申込みや事後アンケートにロゴフォームを活用した。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	クラウドファンディングや場づくり、CANVAといったテーマが、市民活動を始めたい人や深めたい人のニーズと一致し、新しい層の参加と交流を促すことができた。	
事業実施上の課題・残された課題	イベントではなく、継続的・公益的な市民活動を創出するには、地域への興味関心を促し、ビジョンや課題を共有する仲間が必要であるためハードルが高い。		
今後の取組方針	改善	判断理由	
		講座の開催だけでは公益活動の創出・継続は困難なため、地域活動を応援する補助金の運用と専門家による相談事業も開始し、財政的な支援や団体運営の支援を強化する。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

事業名		担当課 生涯学習課			関係課		
No.	3	学びと活躍推進事業					
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款 8	項 5	目 1
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱 (1)(4)
根拠法令等						事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(R4 年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)						

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	学びを通して地域課題や社会課題に触れ、考える機会をつくることで、地域や社会に能動的に関わり行動する市民が増える。また多様な市民同士が学び合うことで、お互いの違いを受け止め、多様性を認め合う意識が醸成される。		
事業概要(全体計画)	○「ischool」の展開 ・多様な講座の開催 ・ポータルサイトの一部リニューアル ○インクルーシブアートワークショップの開催		
事業の対象	生駒市民 (対象数:)		
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績	
	・市民協働や他課との連携による講座の開催 1089千円 ・学びのポータルサイトの運用 341千円 ・インクルーシブアートワークショップの実施 1474千円	・市民協働や他課との連携による講座の開催 679千円 ・学びのポータルサイトの運用 215千円 ・インクルーシブアートワークショップの実施 1474千円	
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	1,213	2,904	2,368	1,392
12委託料	253	1,815	1,722	253
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	960	1,089	646	1,139
財源(千円)	1,213	2,904	2,368	1,392
特定財源				
市債				
その他		60	0	
一般財源	1,213	2,844	2,368	1,392

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ischoolでは様々な主体と連携して16回の講座を企画実施したほか、「インクルーシブアートワークショップ」を実施した。またそれぞれの事業について、ischoolのWEBサイトで告知募集を行ったほか、実施後のレポートを掲載するなど情報発信に努めた。		
KPI	指標1		指標2
指標名(単位)	アンケートで「今後の暮らしに活かしたいことがあった」と答えた割合(%)		
目標値	70		
実績値	83		
目標値と実績値の差分についての理由	それぞれの講座において、より参加者の興味関心や学びへのニーズに沿った内容となるよう企画段階から十分に検討するようにした。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	スキルのある市民に講師を依頼するなど市内にある様々な資源を活用することで、より効率的な予算執行につながった。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	働き盛り世代の市民に地域の魅力や課題、また社会課題に触れてもらうために「こどもと一緒に学ぶ」形式を取り入れたり託児を用意するなどできるだけ参加しやすい場となるよう企画してきた。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市民や地域の団体、また「協創対話窓口」で提案してきた民間企業とも連携して講座を企画実施してきた。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	講座の企画においてデータ活用の余地はあまりなかったが、参加者のニーズ等はアンケート等で把握しておりこれらのデータを今後の講座企画で活かしていきたい。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	多様な講座を実施することができ、参加者からの評価も高く、また講座の中でも大人の参加者が積極的に役割を果たすことでより深い学びを得て参加者同士のつながりづくりも図れるなど効果も高かった。	
事業実施上の課題・残された課題	まだ庁内連携は限られた課としかできておらず、さらに連携先を広げていく必要がある。		
今後の取組方針	改善	判断理由	
		インクルーシブアートワークショップについては今後の事業の方向性を検討するため令和7年度は予算計上を行わなかったが、ischoolでは引き続き様々な講座を実施する。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担当課		生涯学習課		関係課		地域包括ケア推進課		
事業名	No.	4 高齢者教育推進事業								
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	8	項	5	目	1
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱		(1)	
根拠法令等							事務区分	自治事務		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(R5 年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	・学びと交流の場を通して健康増進を進めるほか、まちづくりに関わるきっかけを得て活動に参加する高齢者が増える。 ・講座を通して知識や情報を得るとともに充実したセカンドライフに向けて今後の生き方を考え、行動する高齢者が増える。		
事業概要(全体計画)	・いこま大学の運営 62歳以上の市民を対象に、「健康づくり」「生きがいづくり」「仲間づくり」をしながら、「まちづくり」でも活躍できることを目指して学ぶ。 ・セカンドライフ充実支援 講演や実践講座を通して豊かなセカンドライフの実現に向けたプラン作成や行動につなげる。		
決算年度の主な取組	事業の対象	生駒市内の高齢者 (対象数:)	
		当初計画	取組実績
		▶いこま大学の運営 3235千円 ▶寿生駒連絡協議会「気らくネット」活動支援 0千円 ▶セカンドライフ講演会 50千円 ▶セカンドライフ実践講座 440千円	▶いこま大学の運営 3149千円 ▶寿生駒連絡協議会「気らくネット」活動支援 0千円 ▶セカンドライフ講演会 46千円 ▶セカンドライフ実践講座 48千円
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	3,775	8,729	3,243	8,188
12委託料	29	31	26	31
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	3,746	8,698	3,217	8,157
財源(千円)	0	8,729	2,105	8,188
特定財源		2,237		2,137
市債				
その他		3,351	2,105	2,452
一般財源		3,141		3,599

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	いこま寿大学において、クラブ学習や一般教養学習会等様々な学習活動を通して市内の高齢者が学び交流できる場づくりに努めた。また、セカンドライフに関する講演会(1回)及び実践講座(1テーマ3回)を実施し、より豊かで安心して今後のセカンドライフを送れるよう支援した。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	セカンドライフ講座受講者累計数(人)		
目標値	600		
実績値	575		
目標値と実績値の差分についての理由	実践講座の開催が3回にとどまったことで、受講者の積み上げが予定より少なくなった。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	物品の購入は必要最小限に抑えるほか、学習会の講師もできる限り企業や本市の関係団体、また出前講座の活用などにより経費を抑えるなど節減に努めた。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	寿大学の学生や講座の受講者は積極的に学習に参加し、新たな学びやつながりを作ることができている。また卒業生等で組織する「気らくネット」も地域貢献活動をはじめ様々な取組を進めている。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市民や関係団体等に講師を依頼するなど、多様な主体と協働しながら学習活動の企画を進めてきた。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	C	デジタルやデータ活用を進める余地が少ない事業であるが、学生向けの情報伝達等でデジタル活用の可能性は高まっており、進めていきたい。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	寿大学は当初予定通りの学習活動をすべて順調に行うことができ、学生に対して充実した学びを提供できた。セカンドライフ講座は実施回数は昨年度より少なかったものの、満足度は引き続き高く、学んだことを当日から実践しようとする意欲が見られるなど内容は充実したものであった。	
事業実施上の課題・残された課題	寿大学の学生数が年々減少している。高齢で就労する市民が多いことが主な理由であげられるが、学びのニーズやサービスも多様化している中で、寿大学で提供するべき学びの種類やあり方についても検討が必要である。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		事業については引き続き実施していくが、並行して寿大学のあるべき姿についても検討を進めていく。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課		スポーツ振興課		関 係 課		施設マネジメント課等		
事業名	No.	5	市内生涯学習施設整備事業							
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	8	項	5	目	2
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱		3	
根拠法令等	生駒市生涯学習施設条例、生駒市生涯学習施設条例施行規則						事務区分	自治事務		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R4 年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設の整備を計画的に行い、今後の方向性を定めることで、整備に係るトータルコストの縮減等を図るとともに施設をより長く安全に使用することができる。									
事業概要 (全体計画)	誰もが安心・安全に利用できる施設にするため、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設を適切に維持管理し、適宜改修や修繕を進める。									
	事業の対象	生涯学習施設							(対象数: 7)	
決算年度の 主な取組	当初計画				取組実績					
	▶北コミ空調工事(1期) 68,354千円 ▶南コミ空調設計業務 7,556千円 ▶南コミ駐車場整備工事設計業務・工事 9,433千円 ▶コミセンLED改修(2階) 10,054千円 ▶生駒セイセイビル非常用予備発電装置制御部品更新工事 4,306千円				▶北コミ空調工事(1期) 56,699千円 ▶南コミ空調設計業務 R7繰越 7,556千円 ▶南コミ駐車場整備工事測量・設計業務 385千円 ▶南コミ駐車場整備工事 R7繰越 8,501千円 ▶コミセンLED改修(2階) 9,424千円 ▶生駒セイセイビル非常用予備発電装置制御部品更新業務 3,520千円					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()									

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	119,380	99,703	70,028	102,641
12委託料	12,964	8,106	3,905	
14工事請負費	29,613	91,597	66,123	102,641
18負担金補助及び交付金				
その他	76,803			
財源(千円)	119,380	99,703	70,028	102,641
特定財源	76,429	13,739	3,905	3,823
市債	13,100	84,800	65,000	82,500
その他	3,646			3,048
一般財源	26,205	1,164	1,123	13,270

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	一部の取組につきましては、入札の不落や工期変更等により令和7年度へ繰越となったが、他の取組については、年度内に完了し、施設利用者の安心・安全を確保することができた。		
KPI	指標1		指標2
指標名(単位)			
目標値			
実績値			
目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	随意契約になるものについては見積合わせを、それ以外は入札による執行で、予算額より費用を抑えることができた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	事業を進めるうえで、実施時期等を施設をはじめ関係部署と協議を重ねて行い、齟齬が生じないよう務めた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	事業を進めるうえで、施設でのモニタリング等の意見を踏まえ、施設の管理運営を行う指定管理者等との協議を進めた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	-	業務効率化のため、今後いずれかの段階で取り入れることができるかどうか検討していく。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	殆どの事業については、予定通り今年度内に事業完了し、一部の事業においても繰越等で工期延長し、対応していくことで、予算計上した事業は着実に進めることができた。	
事業実施上の課題・残された課題	予算化した以外のことでの予期せぬ修繕等が多く、利用者の方に影響を少なくするため、今後予防的保全の観点からも進めていく必要が急務である。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		今後も指定管理者等との連携を行い、施設の適切な維持管理を行っていく。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報		担 当 課	スポーツ振興課、危機管理課、消防署	関 係 課	土木課等
事業名	No. 6	やまびこホール廃止関連事業			
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目 款	8 項 5 目 2
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱 3
根拠法令等					事務区分 自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度~継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R6 年度~ R8 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設存続の場合に係る敷地使用料、建物改修費用等施設の将来的な維持費が無くなることから、財政負担を減らすことができる。また、生駒山系や周辺地域の火災に安定した水利を確保し、防御活動を行うことができる。	
事業概要(全体計画)	個別施設計画に基づき、令和6年3月31日をもって生涯学習施設やまびこホールを廃止し、原状回復したうえで土地の賃貸人に返却する。令和7年3月31日までに建物や屋外トイレ等の一式を解体・撤去するとともに、防災行政無線を移設し、令和7年4月以降に耐震性貯水槽を別用地へ新設する。	
事業の対象	やまびこホール (対象数: 1)	
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績
	◇スポーツ振興課 【解体前準備】浄化槽消毒・清掃汲み取り 178千円 【解体・撤去】石綿調査 550千円 建物、屋外トイレ、浄化槽、耐震性貯水槽等の解体工事 35,442千円 【その他】光熱水費 178千円、消防設備点検委託料29千円、敷地使用料 1,570千円、ごみ引き取り業務165千円、除草業務 165千円、防犯カメラ移設業務64千円 ◇消防署 【設計業務委託】耐震性貯水槽 6,424千円 ◇防災安全課 【移設】防災行政無線移設工事 2,530千円	◇スポーツ振興課 【解体前準備】屋外トイレ防護柵設置 33千円 浄化槽消毒・清掃汲み取り 178千円 【解体・撤去】石綿調査 693千円 建物、屋外トイレ、浄化槽、耐震性貯水槽等の解体工事 18,964千円、 【その他】除草業務 110千円、ごみ引き取り業務 132千円 LPガス撤去 10千円、光熱水費 200千円、敷地使用料 1,565千円 防犯カメラ移設業務 110千円 ◇消防署 【設計業務委託】耐震性貯水槽 4,924千円 ◇防災安全課 【移設】防災行政無線移設工事 2,511千円
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()	

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	0	47,295	29,430	25,000
12委託料		7,575	6,180	
14工事請負費		37,972	21,485	25,000
18負担金補助及び交付金				
その他		1,748	1,765	
財源(千円)	0	47,295	29,430	25,000
特定財源		35,442	18,964	
市債		6,400	4,924	25,000
その他				
一般財源		5,453	5,542	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	解体工事については、解体前から地元住民との調整をはじめ、地権者や関係部署、解体工事業者との立ち合いを含めた協議を重ね、工期内に無事に終わることができた。他の業務においても年度内に完了することができた。	
KPI	指標1	指標2
	指標名(単位)	
	目標値	
	実績値	
目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由
	B	随意契約になるものについては見積合わせを、それ以外は入札による執行で、予算額より費用を抑えることができた。
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由
	A	事業を進めるうえで、実施時期等を地権者をはじめ関係部署と協議を重ねて行い、齟齬が生じないよう務めた。
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由
	-	地元住民との調整は行ったものの、地権者をはじめ、限られた関係者と進めるものであり、多様な主体との競争が難しい事業であったことから、取り入れることをしなかった。
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由
	-	事業を進めるうえで、特にデジタル・データの活用を行っていない。
総合評価	評価	評価した根拠・理由
	A	関係者との協議を計画的に重ねて行い、予定通り年度内に無事完了することができた。
事業実施上の課題・残された課題	新たな耐震性貯水槽が完成するまでの間に万が一有事の際は、大門町内にある溜池の水を水源に使用するため、定期的に溜池の水位の確認や溜池周辺の草刈り等を行う必要が有る。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由 次年度については、他の場所への耐震性貯水槽の再設置が、工期内に終わるよう努めていく。

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担当課 図書館		関係課 施設マネジメント課等	
事業名	No. 8	図書館リニューアル事業			
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	8 項 5 目 3
施策体系	1	市民自治活動・学び		戦略的施策	<input type="checkbox"/> 行政改革大綱 (3)(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R5 年度～ R7 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	開館から38年を経過し老朽化した図書館本館は、現代の市民ニーズにも合わなくなってきた。設備や備品等の更新とともに、まちづくりの拠点となる図書館を目指しレイアウトやデザインなども一新する。				
事業概要(全体計画)	市民ワークショップによりリニューアルの方向性を決め、それに基づき実施設計を行う。令和8年度4月再オープンを目指し、クロージングイベント、工事、オープニングイベント等を実施する。				
	事業の対象	生駒市民			(対象数: -)
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績		
	実施設計業務委託料 6,478千円		実施設計業務委託料 6,427千円 石綿建材事前調査業務委託料 94千円 プロポーザル外部委員報酬 14千円×3回 42千円		
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	210	6,478	6,563	103,491
12委託料		6,478	6,521	5,046
14工事請負費				96,387
18負担金補助及び交付金				
その他	210		42	2,058
財源(千円)	210	6,478	6,563	103,491
特定財源		6,478	6,427	88,876
市債				12,000
その他				364
一般財源	210		136	2,251

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	市民ワークショップで決定されたリニューアルの方向性を具体化させるため、プロポーザル方式により、広く提案を集めた。その結果、落ち着きと活動・交流が共存できる新しい図書館としての実施設計を行うことができた。	
KPI	指標1	指標2
指標名(単位)		
目標値		
実績値		
目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価 A	評価した根拠・理由 詳細な仕様書を作成することにより、プロポーザルの予定価格を低く設定することができた。
目的思考(施策目標への寄与)	評価 A	評価した根拠・理由 プロポーザル方式で広く提案を求めることにより、市民の思いを反映することができた。
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価 B	評価した根拠・理由 市民ワークショップで決定したリニューアルの方向性を基に実施設計を行った。
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価 -	評価した根拠・理由 設計業務のため。
総合評価	評価 A	評価した根拠・理由 市民に図書館へ愛着を持っていただけるよう、機能性とともデザインやレイアウトにも配慮し、かつ低コストで工事が実現できるような実施設計ができた。
事業実施上の課題・残された課題	令和7年度に実施する工事を無事に完了させるとともに、クロージングやオープニングイベント、図書館オリジナルグッズの作成、販売等により、市民に図書館に対する理解を深めていただき、利用増進を図る。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由 令和6年度に完成した実施設計をもとに工事を実施する。

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課 図書館		関 係 課	
事業名	No. 9	まちづくりの拠点としての図書館づくり			
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款 8 項 5 目 3
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱 (1)(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度)		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続)		<input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	まちづくりの拠点として、読書活動の推進を図りながら、市民と協働することによって図書館への理解を深めていただく。	
事業概要(全体計画)	これまで培ってきた市民や行政、民間事業者との協働のノウハウを活かしながら、図書館運営や各種サービス、イベント等の事業を行う。	
	事業の対象	生駒市民 (対象数: -)
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績
	読書バリアフリー 音訳・知的障がい者サポート 119千円 本棚のWA、未在亭 17千円 ビブリオバトル 450千円 トライ！生駒子ども読書会議 92千円 NAIST連携事業 留学生と絵本であそぼ 公民連携事業 はっばクラブの試行	読書バリアフリー 音訳・知的障がい者サポート 114千円 本棚のWA、未在亭 7千円 ビブリオバトル 364千円 トライ！生駒子ども読書会議 50千円 NAIST連携事業 留学生とFunTime 公民連携事業 はっばクラブの試行
	事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	1,282	678	535	731
12委託料	500	500	0	
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	782	178	535	731
財源(千円)	1,282	678	535	731
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	1,282	678	535	731

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ボランティアの養成や様々な市民協働事業を実施し、多くの市民が図書館での活動を通してネットワークを構築している。	
KPI	指標1	指標2
指標名(単位)		
目標値		
実績値		
目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価 B	評価した根拠・理由 市民の発想や力を活用した事業が展開でき、内容の充実したイベントができた。
目的思考(施策目標への寄与)	評価 B	評価した根拠・理由 障がい者や外国人等誰も含めた地域のネットワークづくりに貢献できた。
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価 B	評価した根拠・理由 民間事業者と協働し、新しい取組にチャレンジした。
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価 B	評価した根拠・理由 子ども読書会議においてネットによる保護者アンケートを実施、分析し、新しい目標を設定した。
総合評価	評価 B	評価した根拠・理由 図書館で様々な人が活発に活動していただき、行政だけでは成しえない成果があった。
事業実施上の課題・残された課題	アプリを用いた親子のネットワーク「はっばクラブ」を試行したが、保護者の活発な投稿に至らなかったため、令和7年度は継続せず、今後の活動について再検討する。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由 引き続き市民と協働しながら図書館サービスの充実に努める。

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課 図書館		関 係 課 デジタルイノベーション推進課	
事業名	No. 10	図書館システムサーバ等機器入れ替え			
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目款	8 項 5 目 3
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策	<input type="checkbox"/>	行政改革大綱 (1)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度(令和6 年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	図書館システムのサーバの保守期限切れに伴う機器等を更新することにより、図書館システムのトラブルを回避し、安定したシステムの稼働を行う。				
事業概要(全体計画)	図書館本館、分館、図書室を休館し、保守期限切れしたサーバ、システム機器を入れ替える。合わせて、図書館本館の老朽化したLANケーブルの更新も行う。				
	事業の対象	生駒市民 (対象数: -)			
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績		
	図書館システムサーバ、業務用端末等機器の入れ替え、システム保守	49,478千円	図書館システムサーバ、業務用端末等機器の入れ替え、システム保守	39,160千円	
	本館LANケーブル更新	1,606千円	本館LANケーブル更新	1,100千円	
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	5,478	51,084	40,260	0
12委託料	5,478	49,478	27,478	
14工事請負費		1,606	0	
18負担金補助及び交付金				
その他		0	12,782	
財源(千円)	5,478	51,084	40,260	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	5,478	51,084	40,260	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	スマホに利用券を表示させる機能等、機器更新に合わせて新しい機能も付加できた。	
KPI	指標1	指標2
	指標名(単位)	
	目標値	
	実績値	
目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価 A	評価した根拠・理由 一般競争入札によりコストを削減できた。
目的思考(施策目標への寄与)	評価 B	評価した根拠・理由 期間内に入れ替えをトラブルなく完了することができた。
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価 -	評価した根拠・理由 システム入替のため。
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価 B	評価した根拠・理由 図書館資料の分類等を精査し、有効な数値を統計でとれるように改善した。
総合評価	評価 B	評価した根拠・理由 図書館システム機器を更新することにより、安定した稼働を実現し、安心して図書館を利用できる環境を整えた。
事業実施上の課題・残された課題	今後も図書館システムの安定した稼働を継続して行っていくことと、利用者ニーズに合わせられるようなより一層のDX化を目指す。	
今後の取組方針	判断理由 入れ替え作業は今年度で終了。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課 図書館		関 係 課 商工観光課	
事業名	No.	11	ビジネス支援事業		
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目款	8 項 5 目 3
施策体系	1	市民自治活動・学び		戦略的施策	<input type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(令和6 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(令和6 年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	ふだん忙しく働く世代が、ビジネスに役立つ知識を学ぶ場となるとともに、新しい地域のネットワークが生まれるようなサードプレイスとなることを目指す。				
事業概要(全体計画)	「論語」をはじめとする多様な参加者が興味を持つビジネスに関するテーマで、年間で9回講座を開催する。各回、ワークショップ等を行い参加者が相互に理解し、繋がりを持てるような機会を設ける。				
	事業の対象	生駒市民			(対象数: -)
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績		
	論語講座 4回開催 その他の講座 5回開催 講師謝礼、チラシ作成 1,000千円		論語講座 4回開催、その他の講座を5回開催し、延べ約250人が参加。 講師謝礼 講師6人 合計836千円 チラシ2,000部・ポスター100部 作成料 149千円		
	事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()			

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	0	1,000	985	0
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他		1,000	985	
財源(千円)	0	1,000	985	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		1,000	985	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	担当講師とも協力しながら各講座において、ワークショップを企画し、単なる座学ではなく参加者同士の交流となる講座を実現した。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	参加者(人)		
目標値	30		
実績値	27.8(見込み)		
目標値と実績値の差分についての理由	継続参加者が少なかったが、目標値は概ね達成できたと考える。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	1回500円の参加費を徴収し、市民の協力を得た。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市民ネットワークの構築には至らなかったが、ワークショップは毎回好評であった。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	各回、独自プログラムを実施し、参加者同士が積極的に関わりを持てるような場を創出した。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	インターネットによる受付等を行った。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	講座テーマの独自性や新規性に関心を持つ市民も多く、市民の学びの場となった。	
事業実施上の課題・残された課題	参加者同士のネットワークづくりや、市民が講座の企画に主体的に関わっていただく等、市民活動への展開が望まれる。		
今後の取組方針	改善	判断理由	
		令和7年度からは「学びと活躍推進事業(生涯学習課)」で実施予定。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担当課 生涯学習課			関係課					
事業名	No.	12	「音楽のまち生駒」推進事業							
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	8	項	5	目	6
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/>	行政改革大綱		(1)(4)	
根拠法令等							事務区分	自治事務		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(R5 年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	・幅広い世代の市民が身近な場所で気軽に生の演奏にふれ、音楽に親しむ機会が増える。 ・音楽祭や吹奏楽事業を通して「音楽のまち生駒」を市内外に発信し、市の魅力を高めることができる。 ・音楽事業への参加をきっかけに、音楽人材のすそ野が広がる。			
事業概要(全体計画)	公募提案型の「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業等により、市民との協働で「音楽のまち生駒」を推進し、音楽文化の担い手の拡大や、文化芸術を通じた本市の魅力向上を図る。			
事業の対象	生駒市民 (対象数:)			
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績	
	市民みんなで創る音楽祭の開催	7,108千円	市民みんなで創る音楽祭の開催	7150千円
	吹奏楽事業の開催 ・いこすいフェスタ ・0歳から楽しめるファミリーコンサート ・いこま吹奏楽の日	1,745千円	吹奏楽事業の開催 ・いこすいフェスタ ・0歳から楽しめるファミリーコンサート ・いこま吹奏楽の日	372千円 438千円 243千円
	リベラルコンサートの開催 ライオンズコンサートの共催	679千円 123千円	リベラルコンサートの開催 ライオンズコンサートの共済	575千円 87千円
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()			

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	8,344	9,655	8,865	9,684
12委託料	6,889	7,450	7,289	7,375
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	1,455	2,205	1,576	2,309
財源(千円)	8,344	9,655	8,865	9,684
特定財源	2,962	3,927	3,927	2,658
市債				
その他	2,341	3,073	2,500	2,850
一般財源	3,041	2,655	2,438	4,176

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	市民みんなで創る音楽祭については市民団体からの企画提案を受け9公演(うち2公演は自主事業枠(委託料なし))を採択し実施したほか、吹奏楽事業3公演、リベラルコンサート及びライオンズコンサートを当初予定どおり実施した。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	音楽事業来場者数(人)		
目標値	7,600		
実績値	8,982		
目標値と実績値の差分についての理由	特に吹奏楽関係のコンサート等への来場が非常に多く大幅に当初予想を上回ったため		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	いずれの事業も市民との協働で行っており、低額な費用で行えている。また、市民みんなで創る音楽祭については毎年ふるさと納税から充当を行っている。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	事業の実施を通して、市民が多様な音楽に親しめる場を提供するとともに、音楽に関わる市民が活躍できる場にもなっており、市民の音楽活動の活性化にもつながっている。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市民吹奏楽団や市内学校の吹奏楽部、また有志の市民団体との連携により事業を実施している。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	C	デジタルやデータ活用の取組をしにくい分野であるが、来場者アンケートのWebフォーム化等の取組は進めている。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	吹奏楽をはじめ音楽に親しむ市民が多く、いずれの音楽公演も多くの参加者でにぎわっており、運営する市民のやりがいにもつながっている。	
事業実施上の課題・残された課題	熱意のある市民や団体に支えられて事業が成り立っており、事業の担い手となる新たな人材を巻き込み続ける取組を進めるとともに持続可能な事業運営形態を考えていく必要がある。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		市民みんなで創る音楽祭については新たな演奏家の参加を促す企画を新たに進めるなど、事業の改善を行いながら各事業を継続的に実施していく。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課 生涯学習課		関 係 課 図書館	
事業名	No. 13	歴史文化の発信			
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	8 項 5 目 7
施策体系	1	市民自治活動・学び		戦略的施策	<input type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(R5 年度～継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	本市には各地域で豊かな歴史と伝統文化資源が存在している一方で、住宅都市として発展してきた経過から、他市からの転入者も比較的多いことからこれらの存在や魅力を知っている人はまだ少なく、そういった市民に向けて本市の歴史と文化を伝えていく。				
事業概要(全体計画)	郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの事業(講座や特別展示等)を通して本市の歴史文化を発信し、市民の郷土愛を高めるとともに、市の指定文化財を増やすことで、まちへの誇りや市の魅力向上を図る。				
	事業の対象	生駒市民			(対象数:)
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績		
	・生駒ふるさとミュージアムの運営 指定管理料27,970 歴史文化入門講座 ミュージアム講演会 特別展・企画展 小学校への出前授業 等 ・文化財の市指定にあたっての候補検討		・生駒ふるさとミュージアムの運営 指定管理料27,970 歴史文化入門講座 ミュージアム講演会 特別展・企画展 小学校への出前授業 等 ・文化財の市指定にあたっての候補検討		
	事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()			

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	28,344	27,970	27,970	27,970
12委託料	27,984	27,970	27,970	27,970
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	360			
財源(千円)	28,344	27,970	27,970	27,970
特定財源				
市債				
その他			0	
一般財源	28,344	27,970	27,970	27,970

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ふるさとミュージアム指定管理者と連携して、同施設において企画展や各種講座、子ども向け学習や体験などの行事を開催し、歴史文化の普及に努めた。また、文化財保護審議会において市の指定文化財の新規指定に向けたスケジュールの報告を行うなど準備を進めた。	
KPI	指標1	指標2
指標名(単位)	市指定文化財の件数(件)	
目標値	4	
実績値	4	
目標値と実績値の差分についての理由		

行革評価(行政改革大綱に基づく評価)

コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	B	評価した根拠・理由 指定管理者によりふるさとミュージアムの施設運営と歴史文化の発信を行っており、一定のコスト削減と安定的な事業運営を図っている。
目的思考(施策目標への寄与)	評価	B	評価した根拠・理由 施設での講座等の開催だけでなく、市内小学校に出向いての出前講座にも積極的に取り組むほか、勾玉づくりなど興味を持ちやすい企画を展開するなど、若い年齢層の市民へのPRにも努めている。
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	B	評価した根拠・理由 ミュージアムでの事業については、資料提供などで様々な企業・団体・市民の協力をいただいているほか、ミュージアム登録ボランティアの協力も得ながら事業を運営している。
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	C	評価した根拠・理由 来館者や講座等の参加者にアンケートを実施しており、いただいた要望等を施設運営や講座等の企画に活用しているが、ニーズ把握等さらなる活用を進めていきたい。
総合評価	評価	B	評価した根拠・理由 ふるさとミュージアムについては様々な展示や講座等を実施し、コロナ禍で大幅に減少した来館者も徐々に回復してきている。

事業実施上の課題・残された課題	令和3年度から取り組んでいる市史編さん事業における調査等の成果を活用して、市史のPRも兼ねた共同での企画なども進めていく必要がある。また、市の指定文化財も新たに増やしていくことも必要である。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由 引き続きふるさとミュージアム指定管理者と連携しながら、生駒の歴史文化の発信に努めていくとともに、市指定文化財の新規指定もスケジュール通り進めていく。

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報

		担 当 課 図書館		関 係 課 生涯学習課	
事業名	No. 14	市史編さん事業			
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款 8 項 5 目 3
施策体系	1	市民自治活動・学び		戦略的施策	<input type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)、(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R3 年度～ 10 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	郷土や伝統文化に関する学習事業を希望する声が多く、郷土学習を希望する市民が一定数常在するため、新修『生駒市史』を発行することにより、まちの歩みを知ることにより、まちへの愛着を醸成し、まちづくりに参画する人を増やす。				
事業概要(全体計画)	地方史の一つとなる生駒市の歴史書籍を専門家と団体、ボランティアの力を活かして編さんすることにより、みんなで生駒の歴史を学び、生駒の未来について考える機会となる。多数の専門家が数年間生駒市域を調査研究した研究成果を市民に還元することによって、市民の郷土学習を牽引することになる。				
	事業の対象 生駒市民 (対象数: -)				
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績		
	史料集2・4印刷 2,376千円 調査・会議出席等謝礼 4,745千円 会計年度職員人件費等 4,677千円 需用費 122千円 役員費 13千円 使用料 17千円 基金積立金 150千円		史料集2・4印刷 1,953千円 史料集2 979千円 1,958円×500冊 史料集4 974千円 1,947円×500冊 調査・会議出席・講師等謝礼 4,427千円 会計年度職員人件費等 4,661千円 需用費 495千円 ・役員費 12千円 使用料 12千円 基金積立金 2千円		
	事業実施手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	9,379	12,100	11,562	26,779
12委託料				495
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	9,379	12,100	11,562	26,284
財源(千円)	9,379	12,100	11,562	26,779
特定財源	2,792		2,922	5,447
市債				
その他	11	160	2	321
一般財源	6,576	11,940	8,638	21,011

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	刊行計画に沿って史料集2・4の作成を行うとともに、次年度以降の本編・史料集の発行に向け会議・調査等を行った。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	書籍・タイトル累計数		
目標値	3		
実績値	3		
目標値と実績値の差分についての理由	6年度目標値に達した。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	史料集の作成では一般競争入札を行いコストの削減に努めた。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	史料集・本編の発行に向け、多数の会議・調査等を行った。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市史執筆の基礎資料となるデータ整理や歴史系イベントの運営を市民ボランティアとともに行った。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市に寄贈や借用した歴史的史料は撮影・リスト作成などを行いデータ化しておくことで、将来的にアーカイブとして公開できるように蓄積を続けている。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	刊行計画に沿って史料集2・4の作成が完了し、次年度以降の本編・資料集発行に向けて順調に調査等が進んでいるため。	
事業実施上の課題・残された課題	市の歴史に関する簡易な内容の書籍等が少なく、市の歴史に関心が高い人々と低い人々の差が著しい。多くの人に市史を読んでもらうことで、市の歴史を正しく認知して郷土に対する愛着を深める人を増やすため、効果的な周知方法を考える必要がある。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		引き続き刊行計画に沿って本編・史料集の作成・発行を行う。	